

令和7年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回E分科会

日時： 令和7年7月7日(月)午後16時30分～

場所： 市水産振興センター＋オンライン

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 出席者紹介

4 協 議

(1) B-1 & B-2：沿岸漁業経営体ビジョン策定業務について

5 そ の 他

6 閉 会

【配布資料】

- 1 次第(本紙)
- 2 出席者名簿
- 3 説明資料
- 4 説明資料 - 別添資料

令和7年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第1回B分科会名簿

【気仙沼市デジタル水産業推進協議会B分科会員】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	分科会長	株式会社さんりくみらい	代表取締役	藤 田 純 一	オンライン
2	副分科会長	株式会社阿部長商店	経営管理部 部長	菅 原 圭 介	オンライン
3		株式会社ヤマヨ水産	代表取締役	小 松 武	オンライン
4	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 教授	東 海 正	オンライン
5	各種団体・企業 (所属名順)	気仙沼信用金庫	常務理事	藤 田 洋 平	欠席
6		アナハゼティ		加 藤 隆 介	
7		気仙沼漁業協同組合	魚市場部水揚管理課長	小野寺 雄 一	会場
8		気仙沼つばき会・一般社団法人歓迎プロデュース	副会長・代表理事	小野寺 紀 子	
9		株式会社藤田鐵工所	代表取締役社長	米 倉 工 雄	欠席
10		宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所	支所長	菊 地 朋 和	会場
11	関係行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	総括技術次長兼班長	芳 賀 圭 悟	会場
12	気仙沼市	気仙沼市	デジタル補佐官	種子野 亮	

【オブザーバー】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	外部企業	一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン		渡 部 更 夢	オンライン
2		一般社団法人歓迎プロデュース		根 岸 え ま	オンライン
3		一般社団法人歓迎プロデュース		男 帛 祐 生	オンライン
4	学識経験者	東京海洋大学・海の研究戦略マネジメント機構	教授	浪 川 珠 乃	
5		東京海洋大学・海の研究戦略マネジメント機構	リサーチ・アドミニストレーター	設 楽 愛 子	
6	関係行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	技術次長	中 家 浩	会場
7		東京海洋大学三陸サテライト		小 松 朋 子	オンライン

【事務局】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	
1	気仙沼市	産業部水産課	課長	齋 藤 英 敏	
2		産業部水産課漁業振興係	主幹兼係長	小野寺 幸 史	
3		産業部水産課漁業振興係	主査	川 田 成 海	
4	古澤企業	三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社	主任研究員	秋 元 康 男	

5	又按止来	三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社	研究員	吉 田 悠 起	
---	------	--------------------------	-----	---------	--



令和 7 年度気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第 1 回B分科会説明資料

令和 7 年 7 月 7 日（月）
16 : 30 ~ 18 : 00

協議1.1. B-1 & B-2 沿岸漁業経営体ビジョン策定事業概要

1. 概要

「沿岸生産力の維持」「地域資源の適切な利用」を主題として、漁業者自らが持続的な沿岸漁業の実現に向けた「浜の将来像・ビジョン」を策定することで、沿岸漁業振興に対する浜の機運醸成と市施策のより効果的な展開を図る。今年度は昨年度からの継続事業としてデジタル技術の活用実証や事例検証等を通して、ビジョンの深堀を図る。

2. 背景・趣旨

- (1) 本事業は市が策定する施策が現場のニーズに合致し、より効果的な沿岸漁業振興につながるよう、地域漁業者自身が「浜をどうしていきたいか？」という将来像・ビジョンを策定することを目的としたもの。
- (2) また、「沿岸漁業構造実態調査」の情報の補完を兼ねる狙い。

3. 内容（詳細は別添参照）

(1) 概要

デジタル技術の活用検討（タイミー等のデジタル求人の活用検討等）

経営体の維持・向上のための調査・検討（生産規模・販路拡大・人材確保等の先進事例の研究等）

長期的な展望に向けての調査・検討（漁場の適正利用に向けて等）

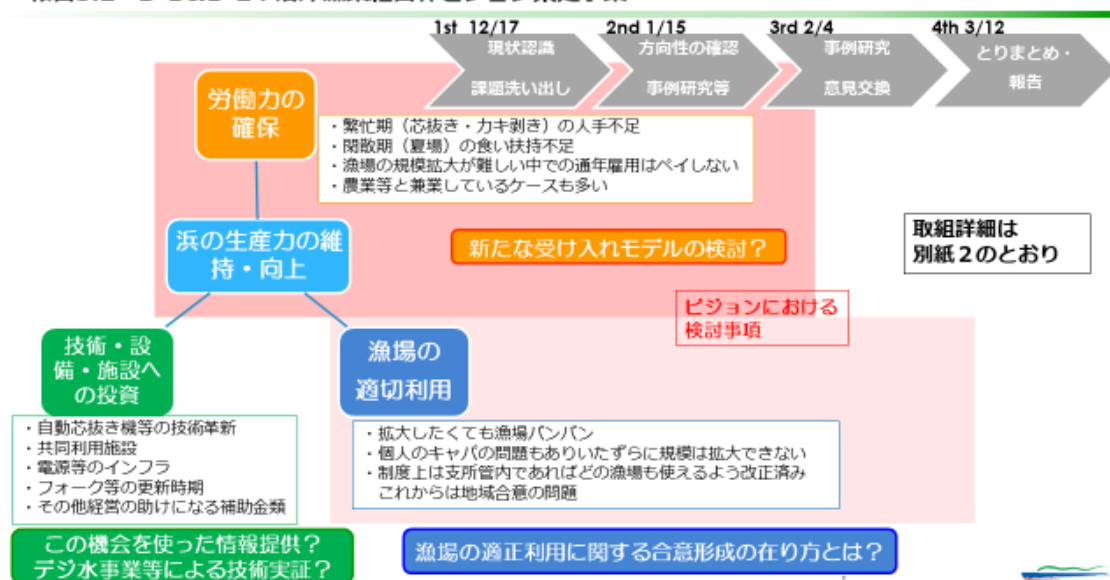
ビジョンの策定

- (2) 期間 令和7年7月～令和8年3月
- (3) 主体 協議会
- (4) 委託先 一般社団法人フィッシャーマンジャパン
- (5) 予算 6,000千円

協議1.1. 昨年度のB-1&B-2：沿岸漁業経営体ビジョン策定の振り返り

#	日時	協議事項
第1回	令和6年12月17日（火）	人材確保や機械化をテーマに意見交換。結果、ビジョン策定では「労働力の確保」と「漁場利用の適正化」をメインテーマとして設定。
第2回	令和7年1月15日（水）	気仙沼地区支所エリアに適した繁忙期の人材確保サービスの検討を実施。漁場利用についても、気仙沼地区支所の特徴をヒアリング。データ分析に向けての調査を開始。
第3回	令和7年2月4日（火）	漁業者が考案・実施・運用を担っている「次世代を考慮して漁場利用」の事例であるJF みやぎ志津川支所の漁場分配事例を紹介。
第4回	令和7年3月12日（水）	気仙沼地区支所階上・松岩エリアの漁場データを分析。結果報告と意見交換を実施。引き続き検討が必要なテーマや取り組みが明確化した。

報告3.2 B-1&B-2：沿岸漁業経営体ビジョン策定事業



次年度への展望

短期目標にむけたアクション

繁忙期の人材確保（短期雇用サービスの活用）等の検証の実施

長期目標にむけたアクション

- ・漁場利用の最適化（低利用漁場の再整理）
- ・生産性向上にむけた漁場の集約・統合

等の経営体の強靱化に向けた調査・研究の実施

協議1.3. B-1 & B-2：沿岸漁業経営体ビジョン策定事業 ポンチ絵

- 昨年度、階上地区で実施したビジョンの策定に必要な課題の洗い出しや、一部事例研究を通して実施した内容について、今年度では、昨年出た課題や事例研究等の深堀を目指す。実証事業（案）の概要は次のとおり。

■ 実施目的：短期的な課題である人手不足に対する解決策の検討。

中、長期的な課題である経営体の強靱化に向けてのビジョン策定。

■ 実施概要：短期的な人材の確保に向けたタイミー層のデジタル求人の活用検討
中・長期的な課題解決に向けたビジョンの深堀（漁場の適正利用やデジタル技術の活用検討等）

実施時期：令和7年7月～令和8年3月

実施対象：階上地区青年部漁業者グループ等

協力事業者：一般社団法人フィッシャーマンジャパン

浜の生産力の維持・向上

労働力の確保
タイミー等の活用の検討 等

経営体の強靱化

漁場の適切利用に向けての調査・研究

経理能力等のデジタルを含めたアプローチの検討

事例研究を通した販路拡大・生産性の向上の検討 等

ビジョンの深堀

ビジョンの策定

市施策の検討

事業スキーム

B分科会

委託

フィッシャーマン・ジャパン

策定支援

JFみやぎ気仙沼地区
支所運営委員会

成果報告

フィードバック

階上地区青年部
漁業者G

2025年度 デジ水協議会ビジョン策定業務 計画説明資料

2025.7.7 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

本事業の目的

本事業は沿岸漁業構造実態調査を踏まえ、**漁業者による将来像の設定（ビジョン）のモデルケースを創出することにより、浜の機運醸成を図り、今後、本協議会の提言に基づき市が展開する施策をより効果的なものとする**ことを目的としています。

「浜の漁業が持続していくために必要なことは何か」という視点に立ち「人材（人財）の確保」を出発点とした議論を千尋会の皆さまを中心に進めてまいりました。

2025年度は、2024年度に実施した調査および検討会で挙げられた論点を踏まえ、**取り組みを「実証」し、さらに「深掘り」するフェーズ**と位置づけ、千尋会の皆様に伴走するための実施内容を提案致します。

2024年度の振り返り

第1回（2024年12月17日）

人材確保や機械化をテーマに意見交換。

結果、ビジョン策定では「労働力の確保」と「漁場利用の適正化」をテーマとすることに。

第2回（2025年1月15日）

気仙沼地区支所エリアに適した繁忙期の人材確保サービスの検討を実施。

漁場利用についても、気仙沼地区支所の特徴をヒアリング。データ分析の許可を頂く。

第3回（2025年2月4日）

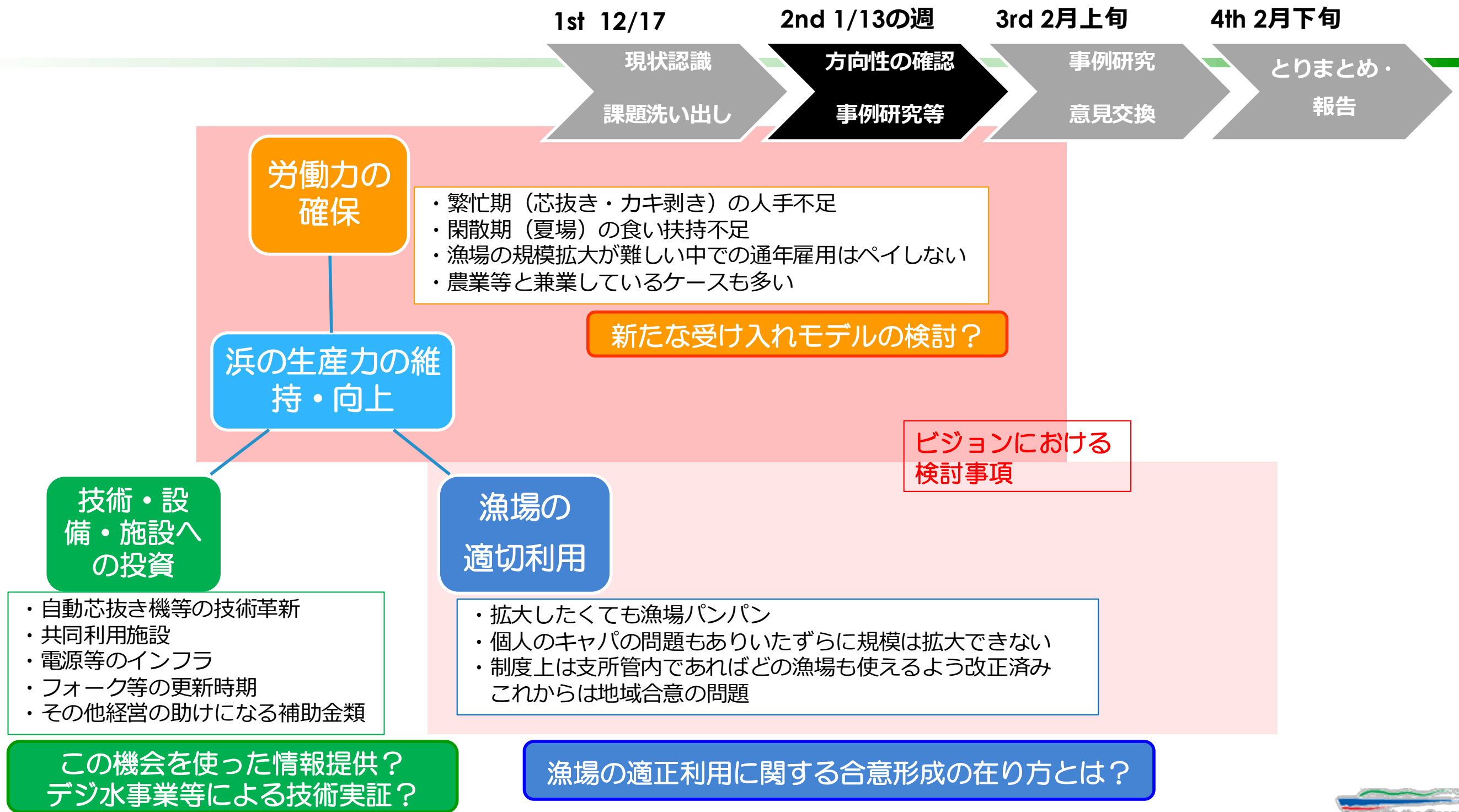
漁業者が考案・実施・運用を担っている「次世代を考慮して漁場利用」の事例であるJFみやぎ志津川支所の漁場分配事例を紹介。

第4回（2025年3月12日）

気仙沼地区支所階上・松岩エリアの漁場データを分析。結果報告と意見交換を実施。

引き続き検討が必要なテーマや取り組みが明確化した。

2024年度の振り返り



2024年度のまとめ（今後の展望と提言）

短期目標にむけたアクション

1. 繁忙期の人材確保（短期雇用サービスの活用）
2. 宿泊施設の整備検討/地域内連携
3. 人材育成の枠組み検討（地域おこし協力隊や組合組織など）

長期目標にむけたアクション

1. 漁場利用の最適化（低利用漁場の再整理）
2. 生産性向上にむけた漁場の集約・統合

市や漁協との連携強化が不可欠

本協議会の提言を基に、実施可能な施策を具体化したり
さらに漁業者主体の合意形成を進めることが必要

2025年度の実施予定項目

取り組み①（短期目標にむけたアクション）

・短期的人材確保にむけたサービス導入の実証実験

3-1. タイミーの導入（1日単位のSPOT導入で月10日x5事業者で想定）

3-2. TRITON JOB SPOTの導入（階上地区で1回募集5名の確保を想定）

3-3. YUIMEの導入（5名の外国人が就労することを想定）

3-4. ジョイントワークスの導入（5名の組合員が就労することを想定）

取り組み②（中長期的な目標にむけたアクション）

・生産維持、販路拡大、人材確保等の先進事例の勉強会

取り組み③（長期目標にむけたアクション）

・気仙沼地区支所エリアでの調査深掘り

1-1. 更なるデータ取得のためのヒアリング調査

1-2. データ取得による組合員の属性わけと傾向分析

1-3. 漁場再分配等、経営体強化のボトルネックになる要件を分析

取り組み④

・有料職業紹介の窓口業務（求人/求職の窓口対応）

取り組み①（短期目標にむけたアクション）

・短期的人材確保にむけたサービス導入の実証実験

■ タイミーの導入を検討

- ・ 都度募集をしてマッチングを行う。
- ・ 1日単位/時間単位での導入が可能。
- ・ 一番導入コストが低いため、種つけ時期など早めの時期から試験導入を開始。
- ・ 報酬総額の30%



■ TRITON JOB SPOTの検討

- ・ 都度募集をしてマッチングを行う。
- ・ 1ヶ月～2ヶ月の長期間での募集が可能。
- ・ 宿泊施設を雇用側が用意する必要があるため、市内の関係者への相談が必須。
- ・ 手数料は募集記事の作成/掲載費用の月5万円～（初期費用別）



■ YUIMEの検討

- ・ 外国人の派遣。
- ・ 2週間～の利用が可能。
- ・ 宿泊施設を雇用側が用意する必要があるため、市内の関係者への相談が必須。
- ・ 手数料は時給＋700円～

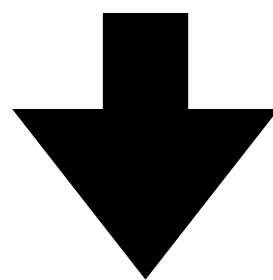
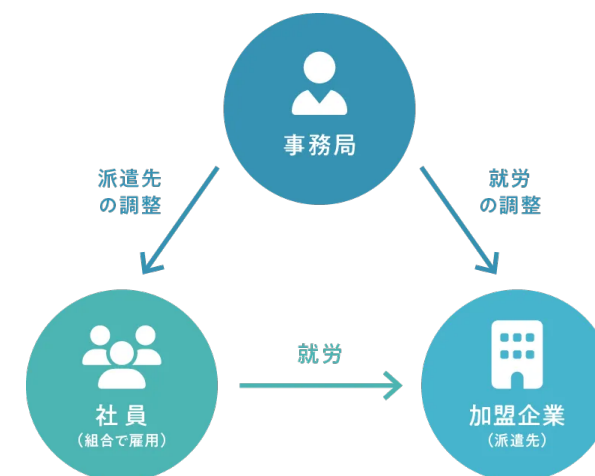


取り組み①（短期目標にむけたアクション）

・短期的人材確保にむけたサービス導入の実証実験

■ジョイントワークスの検討

- ・地域内企業で組織する協同組合からの派遣。
- ・事前に組合組織との調整が必要。
- ・1日単位/時間単位での導入が可能。
- ・一律1時間あたり1620円(税別)



★本事業内で検討のうえ、サービスが決まれば繁忙期時期にあわせて利用開始

★「手数料」「宿泊費」にあたる部分は事業費の中で全体最大815,760円は負担可能

※人件費を事業費で負担することは不可。

★運用例

タイミーで時給1,000円で1日5時間の仕事を20日間利用して20人が働いた場合。

¥1,000/時 x 5時間/日 x 10日 x 10人 = 500,000円（全報酬）

タイミーに支払う手数料は全報酬の30%で150,000円（手数料）

この時、150,000円は事業費で負担が可能。

取り組み②（中長期的な目標にむけたアクション）

・生産維持、販路拡大、人材確保等の先進事例の勉強会

水揚げ量 × 単価 － 経費

■ 水揚げ量の維持/向上

- ・ 1経営体あたりの**水揚げを上げるには漁場の整理が必要**。現在は、長期目線での調整が必要な部分。
- ・ さらに水揚げ維持には**人材確保も必須あり「繁忙期限定」での確保を検討**。長期目線では、安定的な確保のために**通年雇用の検討も必要**。

■ 単価の維持/向上

- ・ 共販での単価を維持/向上するためには**品質の安定**が求められる。自然相手で不安定な一方で、**地域内での技術の共有**などの施策は考えられる。
- ・ 共販主体の一方で、**単価の安定のために小売や卸売をする事例**もある。これは、同時に**組合機能との衝突が懸念されるため、さまざまな調整が必要**だが検討が必要な部分になる。

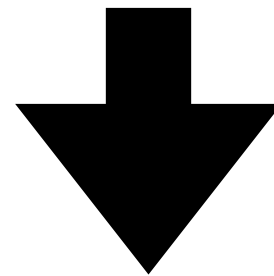
取り組み②（中長期的な目標にむけたアクション）

・生産維持、販路拡大、人材確保等の先進事例の勉強会

$$\text{水揚げ量} \times \text{単価} = \text{経費}$$

■ 経費

- ・ 既に話題として出てきたのは**税制対策**。
- ・ そのほか、**効率化/省力化できる部分の検討**も進める。



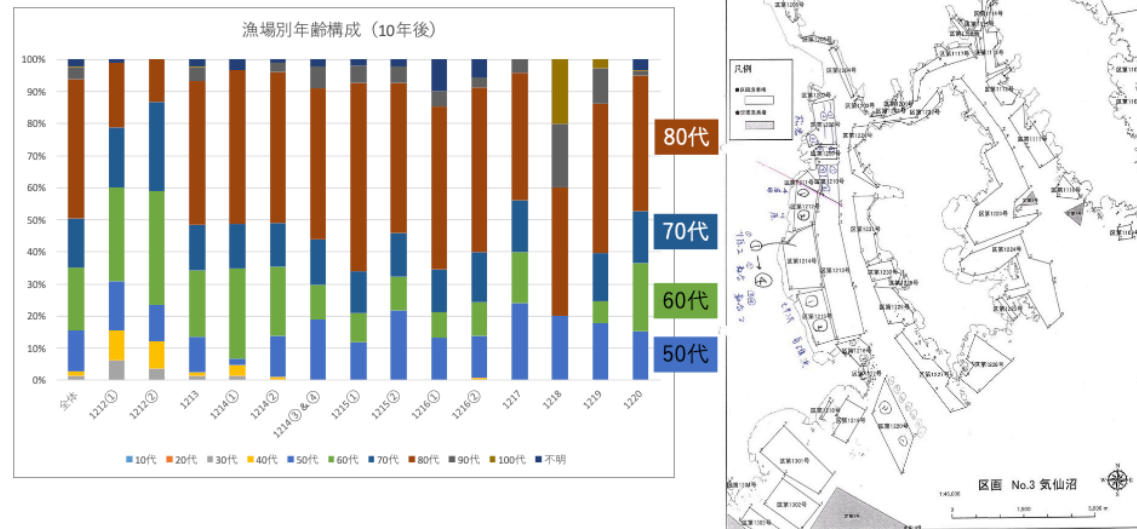
★既に**水揚げの拡大、単価の向上、人材の継続登用を実現**している県内の「わかめ事業者」に来て頂き、意見交換会を実施する。

★**水産業を経営目線で紐解く**ためのアドバイザーとして「気仙沼ビズ」や「東北行政事務事業協同組合」へ相談を開始する。可能であれば、**講師として招いて勉強会を実施**する。

取り組み③（長期目標にむけたアクション）

・気仙沼地区支所エリアでの調査深掘り

議論② 漁場の適正利用～分析結果～



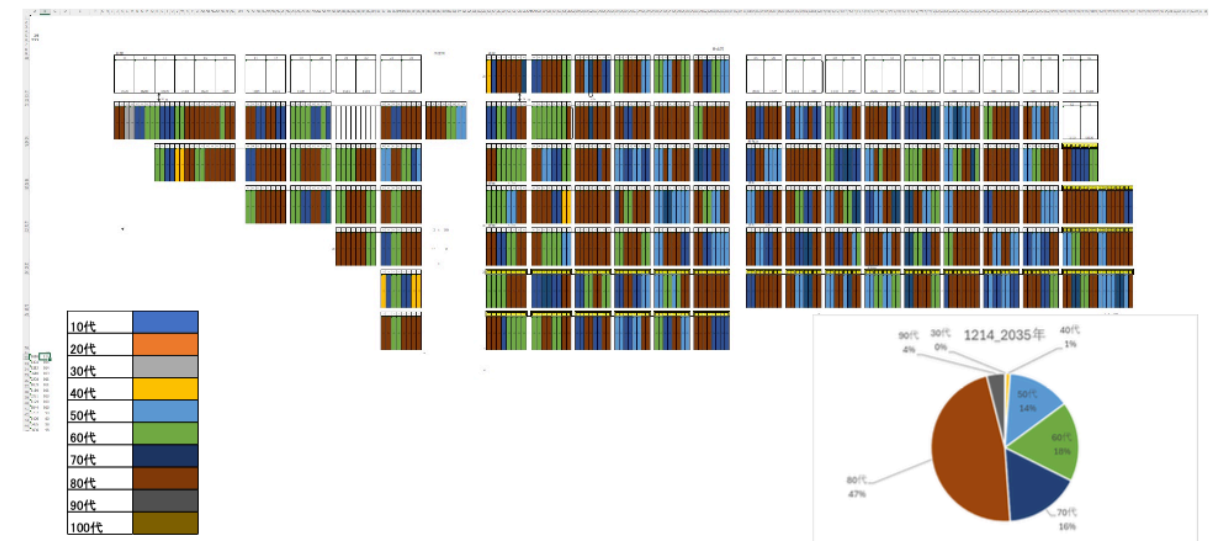
「別添2」

14



議論② 漁場の適正利用～分析結果～

1214漁場の変化 2035年



「別添2」

24



さらに調査すべき考察点（調査員：鈴木）

★生産効率が低い養殖施設の考察

- ・高齢になると生産性が下がる？
- ・台数が増えると生産性が下がる？
- ・直販の比率が高い？
- ・漁場貸し借りが発生している？

★高齢且つ漁場の広い漁業者の将来への思い

- ・中立な立場からヒアリングをして今後への見通しを探る

基礎情報の追加調査

★後継者の有無

沿岸漁業構造実態調査に付随して追加質問及び情報共有予定



スケジュール

令和7年度 気仙沼デジ水_ビジョン策定業務

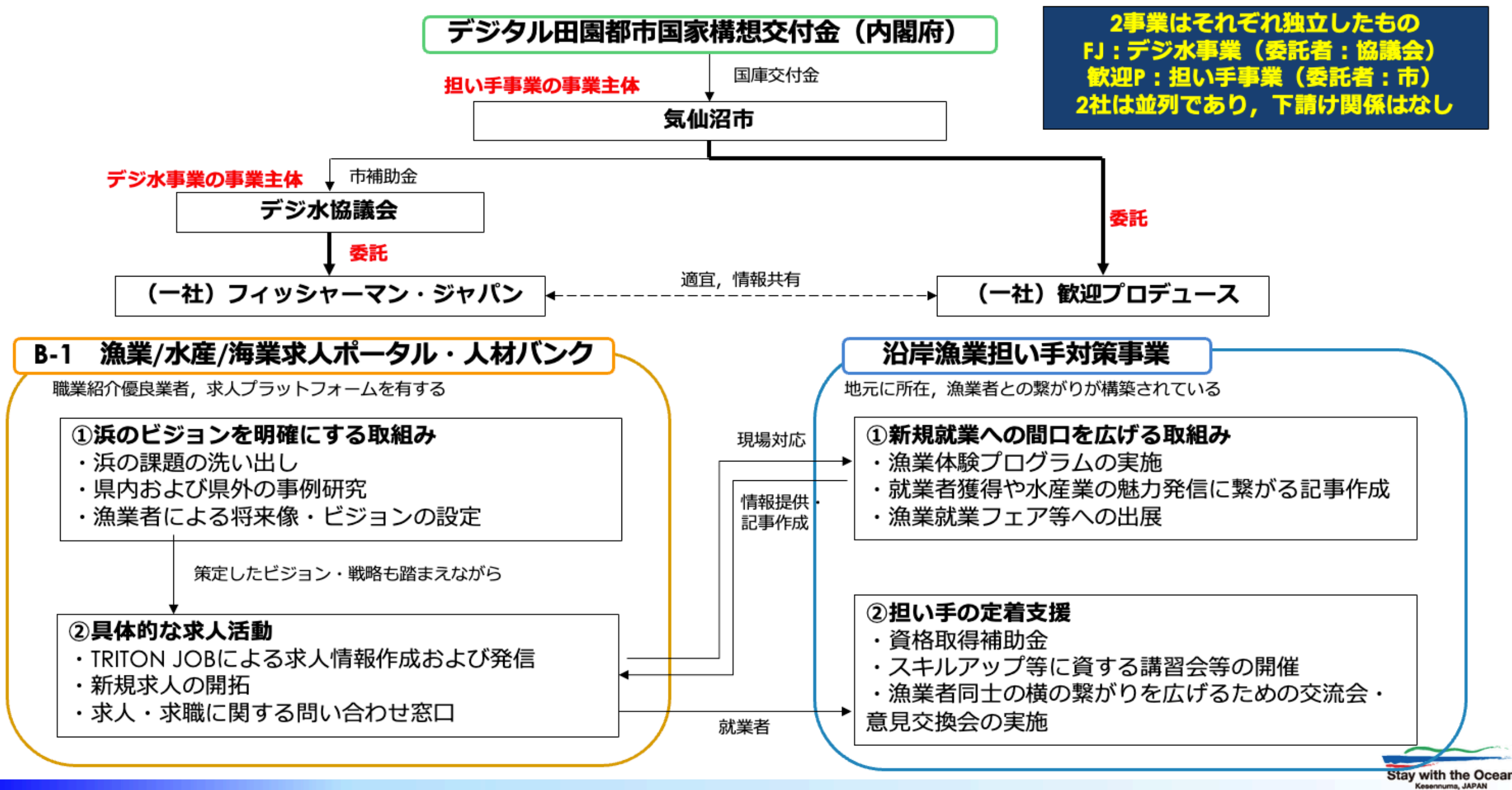
2025.7.7

★は今年度の話題

カテゴリ	内容	備考	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取り組み① 長期目標にむけたアクション 【漁場の適正利用】 漁場利用の最適化を目指して、調査データの精度を上げるためのヒアリングおよびデータ調査を実施	・ヒアリング調査	後継者の有無、販売先	ヒアリング								
	・データ調査	ヒアリングデータを反映			データ調査						
	・報告、振り返り						報告				
取り組み② 長期目標にむけたアクション 【生産性向上にむけた経営体会議】 販路の強化や経営体の強靱化を目的とした会議を実施	・勉強会の実施	浜人を想定	検討・実施								
	・意見交換会の実施	けせんぬまビズ(地元特化のアドバイザー)をオブザーバーにしたい	検討・実施								
	・テストマーケティングの実施	浜人との連携など			検討				実施		
取り組み③ 短期目標にむけたアクション 【労働力の確保】 繁忙期の労働力確保にむけた「新たな受け入れモデルの実証実験」を実施	各サービスの営業との打ち合わせ ・タイミー ・TRITON JOB SPOT ・ジョイントワークス	代表者でのmtg	営業とのmtg								
	・地域内での運用方法の検討	事業者を集めてのmtg	具体の実施方法検討								
	・具体の実施スタート				実証実験						
	・振り返り							随時振り返りの実施			
★気仙沼地区支所エリアでの取り組み 地域の未来を自分ごと化するために、大島含む支所全体の若手メンバーに対して事例共有	・地域全体の意識醸造を目指す	戸倉の事例など	青年部の動きなどとあわせて実施								
★気仙沼市内事業者との連携模索 ・インターンシップ事業 ・ゲストハウスの利用 ・ジョイントワークス ・けせんぬまビズ	・気仙沼の既存プレイヤーと漁業者さんたちの連携可能性を探る。		打ち合わせ・利用検討など								
定例会の実施 ・歓迎プロデュースとの情報共有 ・分科会の海洋大学が実施するヒアリングとの連携			定例会		定例会		定例会		定例会		定例会

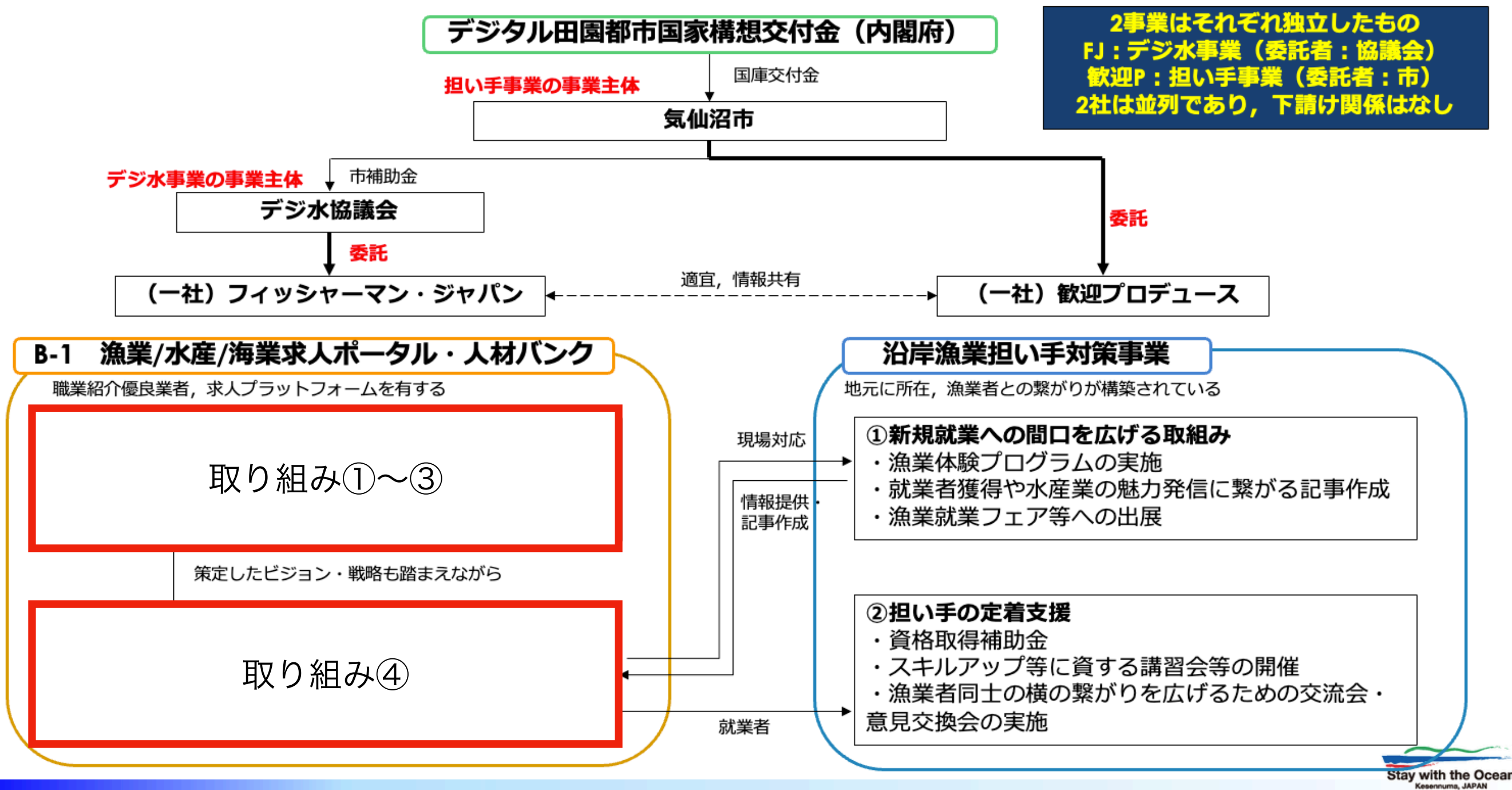
担い手関係事業における取り組みの整理

R7以降の担い手関係事業のスキーム整理



担い手関係事業における取り組みの整理

R7以降の担い手関係事業のスキーム整理



取り組み④の具体業務説明（職業紹介業務のすみわけ）

No.	プレイヤー フェーズ	FJ	歓迎P	求人企業	求職者
1	求人情報 取得段階	企業からの直接取得or歓迎Pを通じての取得	企業からの直接取得した場合は、FJに共有	FJに直接か、歓迎P経由でFJに求人を提出	
2	求人活動 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ TRITON JOBを用いた求人活動 ・ 歓迎Pから依頼予定の求人強化（WEB求人媒体での求人拡散等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライターに依頼した求人もしくはコラム記事の作成3件作成予定 ・ 求人強化対象3件分のTRITON JOB以外での求人作成をFJに依頼予定 ・ 強化対象3件の運用強化をFJに依頼予定 		
3	求職者からの 応募段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募者との初期面談（電話ヒアリング） ・ 応募者からのエントリーシート取得 ・ 求職者情報を求人企業に紹介（歓迎Pに共有依頼） 	・ FJから共有されたエントリーシートを求人企業に紹介		<ul style="list-style-type: none"> ・ FJと初期面談 ・ FJにエントリーシートを提出
4	マッチング 段階	・ 歓迎P経由で求人企業からの合否を受け取り、求職者に連絡。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考結果をFJに共有 ・ 現地研修や面談がある際にはロジ調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求職者の書類選考 ・ 求職者の研修後の選考 	・ 現地面談、研修が必要な場合は、歓迎Pを通じて日程調整

※職業安定法の第三十二条の十に、「有料職業紹介事業者は、自己の名義をもつて、他人に有料の職業紹介事業を行わせてはならない」との記載があり、この条文に抵触しない業務フローにしています。この場合、歓迎Pが「補助的業務」や「情報提供・伝達」等を行うのであれば問題ありません。

令和7年度 気仙沼デジ水_ビジョン策定業務

2025.7.7

★は今年度の話題

カテゴリ	内容	備考	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取り組み① 短期目標にむけたアクション 【労働力の確保】 繁忙期の労働力確保にむけた「新たな受け入れモデルの実証実験」を実施	各サービスの営業との打ち合わせ ・タイミー ・TRITON JOB SPOT ・ジョイントワークス	代表者でのmtg	営業とのmtg								
	・地域内での運用方法の検討	事業者を集めてのmtg	具体の実施方法検討								
	・具体の実施スタート				実証実験						
	・振り返り							随時振り返りの実施			
取り組み② 長期目標にむけたアクション 【生産性向上にむけた経営体会議】 販路の強化や経営体の強靱化を目的とした会議を実施	・勉強会の実施	浜人を想定	検討・実施								
	・意見交換会の実施	けせんぬまビズ(地元特化のアドバイザー)をオブザーバーにしたい	検討・実施								
	・テストマーケティングの実施	浜人との連携など			検討				実施		
取り組み③ 長期目標にむけたアクション 【漁場の適正利用】 漁場利用の最適化を目指して、調査データの精度を上げるためのヒアリングおよびデータ調査を実施	・ヒアリング調査	後継者の有無、販売先	ヒアリング								
	・データ調査	ヒアリングデータを反映			データ調査						
	・報告、振り返り						報告				
★気仙沼地区支所エリアでの取り組み 地域の未来を自分ごと化するために、大島含む支所全体の若手メンバーに対して事例共有	・地域全体の意識醸造を目指す	戸倉の事例など	青年部の動きなどとあわせて実施								
★気仙沼市内事業者との連携模索 ・インターンシップ事業 ・ゲストハウスの利用 ・ジョイントワークス ・けせんぬまビズ	・気仙沼の既存プレイヤーと漁業者さんたちの連携可能性を探る。		打ち合わせ・利用検討など								
定例会の実施 ・歓迎プロデュースとの情報共有 ・分科会の海洋大学が実施するヒアリングとの連携			定例会		定例会		定例会		定例会		定例会

